

[ここに入力]

粕谷和夫の観察日記より。普通は、太めの幹に縦に止まるアオゲラが、ケヤキの細い枝に止まっています。高いところから周りを見通したかったのか。なんとなく不自然な感じです。八王子・宇津貫の公園です。

紅葉台



新聞

第75号

2023年

4月29日

発行人：関谷 孝

カワセミ会地元探鳥会 めじろ台から山田駅

3月14日朝は寒かったのですが、天気が回復し晴天になりました。春の兆しを感じて鳥たちも巣作が始まり、きつと忙しいのではと想像します。



初めに万葉公園へ。途中の道路ではハクセキレイがちょこちょこ小走りに歩いていました。この鳥はなかなかユーモラスで親しみを感じます。会長

から「鳥には歩くのとジャンプするのがいます。スズメはジャンプします」と話がありました。ハクセキレイが可愛いのは小走りに歩くからでしょうか。

公園の築山の高台からは、街並みが良く見渡せます。下に降りると真覚寺があります。会長の話によると「心字池には江戸時代より数万匹のヒキガエルが産卵に来た」そうですが、「めじろ台の住宅が出来てからはカエルの姿が見えなくなった」そうです。そのころはカエルのにぎやかな鳴き声で「蛙合戦」と言われたとのこと。この池の水は湧水です。八王子の湧水8選の1つになっています。お墓にお参りに来た人が「自分が子どもの頃からコンコンと水が湧いていた」と教えてくれました。近くには早咲きの桃色の桜が可憐な花を咲かせていました。大きな松の木には、シジュウカラやヤマガラがやって来ました。



次は、東めじろ台緑地（黒木開戸緑地）。ここは、高い丘になっています。頂上からは360度八王子の街が見渡せます。赤い帽子をかぶったコゲラが木の上をちょこちょこ動き回っていました。かわいいエナガもペアになって飛び回っています。その時どこからともなくウグイスが鳴き始めました。よく見ると木の枝に止まって鳴いています。大きな口を開け、体全体を使って力強く元気な鳴き声で「ホーホケキョ」と鳴く様子をじっくり観察することが出来ました。ウグイスは、日ごろ声はすれども姿を見ることはなかなかできないので、得意げに鳴く姿をじっくり見ることが出来て感激です。



その後はしばらく歩いて廣園禅寺に行きました。清として歴史を感じる大木がたくさん生えています。臨在禅寺で600年以上の歴史があり、都の重要文化財になっています。大きくて歴史を感じる桜の大木が

ありました。花が咲くころ来るのもいいですね。樹齢200年の枝垂れ桜もありました。古木に「のきしのぶ」が寄生しているのを会長より教えてもらいました。ここで鳥合わせ。ベストは、ウグイス、エナガ、ヤマガラでした。最後は山田駅まで歩いて解散です。今日は参加者も11名。新しくカワセミ会に入会した2人も参加し

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。

ました。「野鳥が大好きで、みなさんに教えてもらってたくさんの鳥を見付けることが出来て楽しかった」と感想を話していました。今日は天気も良く春の花々を観察しながら、見晴らしの良い公園や由緒あるお寺をめぐるの街探検と探鳥会と一緒にあった観察会でした。

【文責 関谷】

粕谷和夫の観察日記 エナガ



エナガです。かわいいですね。3月14日、八王子の某緑地です。いつも敏速に動き回るエナガのシャッターチャンスは少ないのですが、この時はじっと止まってくれてポーズをとってくれました。

♥エナガが可愛いのは、体がちっちゃくて真ん丸というだけではなく、目がゴマのようにちっちゃく、くちばしもおちょぼ口です。こんなにもちっちゃい作りが可愛さを引き立てているのだと思います。

巣箱の中のヤモリ

昨年、上柚木公園に設置した巣箱の利用状況調査と巣箱の清掃で、11個の巣箱のうち7個の巣箱に昨年営巣されたことが確認されました。シジュウカラやヤマガラの営巣がなかった巣箱にヤモリが入っていました。巣箱を掛けると、鳥の利用が無くてもこのような生きものも巣箱を利用していることが分かりました。



キレンジャクとヒレンジャク

山中湖にレンジャクの観察に行ってきました。昨年は2月に行き空振りでしたが、今年は3月で何とか出会うことが出来ました。しかもキレンジャクとヒレンジャクの両方です。上の写真がキレンジャク（尾羽の先が黄色）、下がヒレンジャク（尾羽の先が緋色）です。ヤドリギの実を美味しそうに食べていました。



ベニマシコ

そろそろ北に帰るベニマシコです。埼玉県坂戸市の高麗川河原で出会いました。小雨降る中で赤いオス2羽が草の種を食べていました。ヒレンジャクの30羽ほどの群れもエノキの新芽を食べていました。

♥マシコとは猿の子供という意味です。紅は赤い顔をしたお猿さんから名前が出来たようです。オスのきれいな紅色に比べてメスは地味な色です。